

五戸総合病院での外科研修を終えて

八戸市立市民病院 外科専門研修プログラム
外科専攻医 盛島 練人

今回、五戸総合病院に3か月外科研修としてお世話になりました。八戸市立市民病院外科専門研修プログラム 専攻医の盛島練人と申します。五戸で外科研修を行って感じたことを簡単ではありますが、書き記させていただこうと思います。

私は初期研修から八戸市立市民病院にいたため、ほかの病院の実際といったところを全く知ることなくここまで来たため、初めは他病院での研修がどういったものになるかは全く想像が付きませんでした。研修が始まってみるとやはり病院ごとの色の違い・マンパワー・設備・制約・特色などいろいろな部分がかつて違ふものかと衝撃を受けました。自分が今まで当たり前のようにやってきたことが、そうではないことに気づかされました。外科研修であるため、その重きは手術に置かれるところが多いのですが、器具の種類・使い方・手術の方法に至るまで細部にわたりその違いを実感しました。初めは驚き萎縮してしまうことも多かったです。しかし、先生方の丁寧な指導を頂き、少しずつなじんでいくことができました。腹腔鏡に関してはわずかではあるものの自分の成長のきっかけにすることができたのではないかと感じています。

また、基幹施設では経験することができなかつた、外来業務も自分の中で1つ成長することができたところだと感じています。基幹施設では病棟業務・手術に追われなかなか外来診察を行うことができませんでした。五戸でじっくりと行うことができたことは今後には生かせることかと感じています。手術のエントリーから化学療法への導入・検診精査や自分の志望である小児外科に関連する症例も経験することができました。間違いなく今までやってこなかつたことの1つなので、これに関しては今後もっと理解を深め、適切かつ正確な診療につなげていきたいと思っています。

また、月々やってくる初期研修医の先生たちとの触れ合いも自分にとって大事なものでした。自分のわかること・知っていることを伝えてやってもらう・自分が前立となって手術を行ってもらうこともまた、五戸に来て初めての経験でした。なかなか伝えようとしても伝わらないもどかしさを感じると同時に、それは自分が真に理解をしていないことを感じさせられ、なおさら正確な知識・技術を身に着けることの必要性を実感させられる大事な機会でした。

専門研修プログラムは基本的に同一の施設のみで完結されないように作られていますが、その意味の重要性を来て初めて実感することができました。何から何まで違ふ中で、自分はどついった立ち振る舞いをするべきか。同じような症例でもアプローチの仕方が違ふ中で、どちらがよりよいものと思われるのか。そういつたものをなるべくたくさんものに触れて、咀嚼し、自分の中で昇華していくことで、外科専門医として、一人前の外科医にならねばならぬにあたって基礎的な部分を作っていくのだなと感じました。基幹施設にただけでは決して味わうことのなかつた、濃密な3か月でした。安藤院長をはじめ、土屋先生、杉沢先生、五戸病院の先生方、外科や手術室のスタッフさんや病棟の方にも本当によくしていただき、お世話になりました。

本当にありがとうございました。